第4回中野区子ども・子育て会議（第3期） 議事録

【日時】

平成30年4月17日（火） 18時00分～20時00分

【場所】

区役所 5階 教育委員会室

【出席者】

（1）出席委員 13名

寺田会長、和泉副会長、新開委員、小山委員、関委員、谷崎委員、角田委員
鯉沼委員、藤田委員、岡見委員、長田委員、中村委員、山本委員

（2）事務局 15名

子ども教育部長
地域支えあい推進室長
子ども教育部副参事 6名
地域支えあい推進室副参事 3名
子ども教育経営分野企画財政担当 4名

【会議次第】

（1）開会

（2）講演

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部 地方創生総括官 唐澤 剛氏
「ごちゃまぜで進めていく地域共生社会 ―地方創生と地域包括ケア―」

（3）議題

- ①新規開設予定の認可保育所及び認定こども園における利用定員について
- ②中野区子ども・子育て支援事業計画の改定について
- ③平成30年度中野区子ども・子育てアンケート調査の実施について

事務局（子ども教育経営担当）

それでは、これより第3期第4回中野区子ども・子育て会議を開催いたします。皆様におかれましては、お忙しいところをご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の子ども・子育て会議につきましては、前半に講演、後半に議題を予定してございます。

講演につきましては、今後当子ども・子育て会議におきまして、子ども・子育て支援事業計画の改定に向けた検討を行います。それに先立ちまして、地域共生社会の実現への動きの中で、子ども・子育て支援にかかわる課題認識や将来展望について、共通認識を持つことを目的に企画したものでございます。

本日の講演内容でございますが、日本の最前線でご活躍されております、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部地方創生総括官の唐澤様をお招きし、「ごちゃまぜで進めていく地域共生社会 ―地方創生と地域包括ケア―」と題してお話しいたします。

初めに寺田会長、ご挨拶をお願いいたします。

寺田会長

本日は、皆様お忙しい中、当子ども・子育て会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日は、唐澤様お忙しい中駆けつけてくださり、大変貴重な機会をいただいたと思います。どうぞゆっくり聞いていただけたらと思います。唐澤様、本日はありがとうございます。感謝申し上げます。

事務局（子ども教育経営担当）

本日ご講演いただく唐澤様のご紹介をさせていただきます。唐澤様は、昭和55年に厚生省、現厚生労働省に入省されました。平成14年に家庭福祉課長、15年に保育課長、平成24年に政策統括官、社会保障担当を務められ、平成26年には保健局長、平成28年6月より内閣官房まち・ひと・しごと創生本部地方創生総括官としてご活躍されております。それでは唐澤様、よろしく願いいたします。

<講演会・質疑応答>

<5分休憩>

事務局（子ども教育経営担当）

それでは、事務局から改めてご報告させていただきます。本日13名の委員の皆様にご出

席をいただいております。中野区子ども・子育て会議条例第5条に基づきまして、会議は有効に成立しております。

続きまして、今年度事務局に人事異動がありましたので、紹介をさせていただきます。

<事務局自己紹介>

事務局（子ども教育経営担当）

それでは会長、進行をお願いいたします。

寺田会長

それでは平成30年度1回目の会議を始めたいと思います。

議題(1)「新規開設予定の認可保育所及び認定こども園における利用定員について」事務局より報告をお願いいたします。

<資料1 について説明>

寺田会長

ありがとうございました。ただいまの議題について、ご意見ご質問などございますか。和泉委員お願いいたします。

和泉副会長

1点確認をさせていただきたいのですが、これまで、この利用定員の意見聴取の際の資料というのは、各年齢別の定員数が記載されていたと思います。今回は、1号〇名、2号〇名、3号〇名というような書き方になっていますが、今後はこのような記載になると理解してよろしいですか。

事務局（幼児施設整備担当）

こういう形でご報告させていただければと思います。

1号につきましては、幼稚園を利用している3歳から5歳ですね。2号につきましては、保育施設を利用している3歳から5歳、3号につきましては0歳、1歳、2歳の保育を必要とする方の区分ということになっております。

和泉副会長

例えば2号認定で3歳以上の、保育所利用の方が、例えば最初の認可保育所であれば、

42人と表示されていますけれども、これまでの資料では3、4、5歳ごとに何人なのか、示されていたと思います。

今回2号でまとめて書かれているということは、例えば3歳の定員が何人なのかというのが見えにくくなりますよね。最近、やはり小規模保育などで、3歳から保育所を移らなければならないという方にとってみれば、この園は3歳の定員がどのくらいあるのかということは、すごく大事な関心事だと思います。もしよろしければ、これまでの資料の形に戻すか、あるいは参考数字というのを示していただいたほうが、よりわかりやすいのではないかなと思いました。

事務局（幼児施設整備担当）

わかりました。次回からはその辺、工夫して出したいと思います。

事務局（子ども教育経営担当）

今回の資料につきましても、後日修正した資料を送付させていただきたいと思います。次回以降の資料については、再度内容を検討して提供させていただくようにしたいと思います。

（※確認の結果、記載の内容はこれまでの資料と同様であったため、差し替えは行わなかった。）

寺田会長

ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。それでは本議題については、了承ということでよろしいでしょうか。

<委員了承>

寺田会長

ありがとうございました。それでは議題(2)「中野区子ども・子育て支援事業計画の改定について」事務局より説明をお願いいたします。

<資料2 の説明>

寺田会長

ありがとうございました。ただいまの報告についてご意見、ご質問などございますか。

関委員お願いいたします。

関委員

参考資料の「中野区子ども・子育て支援事業計画の改定に向けた意見交換について」、各委員が発表するというのでそれぞれの委員名が書いてあります。私は幼稚園の代表で出ておりますが、学校教育という観点があるにもかかわらず、幼児教育や幼稚園教育という言葉がないのですけれども、それはどこに含まれているのでしょうか。

事務局（子ども教育経営担当）

今回、地域共生社会というところで、地域の中で子ども・子育てを支える地域づくりを進めるという論点を設定させていただきたいと思ひまして、その中で、今後議論が必要なものとして、参考資料のような項目設定をさせていただきました。この内容に加えてというご意見であれば、もちろん追加もあると思ひます。そこにつきましては、この会議の中でご議論いただき、項目の設定をお願いできればと思ひております。

関委員

それは今日ですか。

事務局（子ども教育経営担当）

はい。まさにこの会議がそういうご議論の場と考えております。あくまでこれは事務局で想定した案でございますので、地域共生社会ということで捉えた場合に、こういう検討項目も必要ではないかということをご意見いただきたいと思います。

寺田会長

いかがでございますか。皆様に参画をいただきながら、ご発表いただきながら、ディスカッションしていくという新たな取り組みだと思ひます。どうぞ、忌憚のないご意見をください。

事務局（子ども教育経営担当）

補足でございますが、就学前教育の充実につきましては、第2期の子ども・子育て会議の中で部会を設定し、深く検討した経過がございます。そのような経過もございますので、今回は特に地域というところに視点を当て、項目設定をしているところでございます。

寺田会長

藤田委員、どうぞお願いします。

藤田委員

テーマとして、ユニバーサルデザインの視点とか、ワーク・ライフ・バランスの視点と

というようなテーマが入ってきているのは、もちろん地域共生というお話を考えるときには重要なテーマになると思います。ただ、ここは区の公の会議ですので、「中野区、地域における状況をお調べいただき」とさらっと書かれています、どこまでのことを調べたいのでしょうか。

例えば、私がワーク・ライフ・バランスの視点から調べられる範囲、あるいは何かいろいろ、周りの人にヒアリングできる範囲というのは限られている中で、この会議に、その偏った情報で何かしらのレポートを持ってきてしまっているものではないのでしょうか。どの程度のものを想定されているのか、それによって、状況を調べるという一言だけでは、かなり上から下までレベルの差があると思ったのです。

事務局（子ども教育経営担当）

まず、本日このような大筋の考え方で了承されたといたしますと、例えば区の中で現状どうなっているのか等の情報提供については、事務局として最大限ご協力する考えでございます。また、まとめ方についても、寺田会長ともご相談しながら、確認するお手伝いをさせていただきたいと考えております。

藤田委員

ある程度、例えば区が持っている今までの統計データはあると思うのですがけれども、そういうものは開示していただいた上で、それが子育ての観点でどのように結びつくのかという視点を、委員のほうから提案しながら資料をつくっていくというような、そういうイメージですか。

事務局（子ども教育経営担当）

既に開示しているものについてはご提供いたしますし、仮に、子育てという観点でデータが不足しているとすれば、それはまた区としてそのデータを持ったほうが良いというご指摘もあろうかと思えます。まず区としては提供できるものはお手伝いをしながら、足りないものについてはご指摘を、この会議の中でいただくことで、次のステップに検討も進んでいく話なのかなと捉えております。

藤田委員

わかりました。

寺田会長

ほかにご意見はありますか。もちろん委員の皆様が、私はこんな情報を持っている、知っているということがありましたら、ぜひこの会議の中で共有していくことがと

でも大事だと思いますので、ご協力いただけたらと感じております。ほかにご意見ございますか。関委員、お願いします。

関委員

先ほど質問したことに关するものもあるのですが、幼稚園は学校ですので、学校を拠点とした地域づくりということも十分に視野に入れながら運営しています。一方で子育て支援も大いに普及していこうとする立場でもあります。ですので、これはどう違うものなのでしょうか。

事務局（子ども教育経営担当）

今回担当ということで、委員お1人の方に担当を割り振らせていただいたのですが、実際にはレポートを発表していただき、ほかの委員の皆様にもそれをきっかけにご発言いただけたらと思っています。学識経験者の皆様にも、あらかじめレポートをお渡しして、それに関係する知見などをその場でご紹介いただきたいと思います。議論を深めるための一つの進め方ということで考えているところでございます。

寺田会長

関委員、お願いします。

関委員

ただこの、地域づくりのほうも書きたいなと思っています。

寺田会長

自主的にエントリーしていただく方に関しては、それは決して拒むというものではございませんよね。ですから積極的にご参加いただくということで、そういう認識でよろしいでしょうか。

事務局（子ども教育経営担当）

はい、ぜひ。

寺田会長

ありがとうございます。皆様もどうぞ、私はここについても発言したいとか、資料を持っているということがありましたら、ぜひよろしく願いいたします。

それでは、ここまでの議題は了承いただいたということよろしいでしょうか。

事務局（子ども教育経営担当）

なお、今日の話を受けて、やはりここはこうしたほうがいいのかというご意見がございませ

たら、事務局のほうにお伝えいただければ、会長とご相談させていただきながら、柔軟に対応させていただきたいと思います。先ほどの関委員のお申し出については反映する形で、資料のほうもつくり直したいと思います。

寺田会長

ありがとうございます。それでは議題(3)「平成30年度中野区子ども・子育てアンケート調査の実施について」事務局より説明をお願いいたします。

<資料3 について説明>

寺田会長

ありがとうございました。ただいまの報告について、ご意見ご質問などございますか。和泉委員お願いします。

和泉副会長

先ほどの参考資料で、子ども・子育てに関するアンケートの実施状況一覧をお見せいただいたところですが、先ごろ、豊島区で妊娠期にアンケート調査をして、それを保育ニーズの把握に使っているという報道もあったと思います。例えば資料中に記載のある、トータルケア事業満足度調査ですとか、そのあたりがタイミング的には近いものかなと思うのですが、こういったものを保育ニーズの把握に活用するなど、中野区では取り組んでいらっしゃるのでしょうか。

事務局（子ども教育経営担当）

豊島区の取り組みについては、とても有益な情報収集手段と区としても捉えております。全く同じに行うのがいいのか、また、方法を変えて行うのがいいかということは検討が必要ですが、そうした豊島区の例のような機会で、情報収集ができないか検討をしたいと思っています。

寺田会長

ありがとうございました。ほかにご意見ございますか。関委員お願いします。

関委員

資料3裏面、子ども・子育てアンケート調査の追加項目案にある「幼稚園の2歳児保育事業の利用意向」というのは、参考資料で配られているアンケート調査票にはもうあるのでしょうか。

事務局（子ども教育経営担当）

参考にお配りしているものは平成25年度時のアンケート調査票でして、「幼稚園の2歳児保育事業の利用意向」についてはその中には含まれていないので、今年度の調査で追加をしたいと考えているものでございます。

関委員

本来幼稚園は3、4、5歳を保育するという規定がございます。2歳児となると家庭保育を支援する形でということがもともとと言われていたはずですが、2歳児の親子クラスと2歳児保育というのを一緒に語ってしまうのは正しくないかと思えます。規定に則ったやり方をしていただきたいなと思えます。

事務局（子ども教育経営担当）

今回は事務局の案としてお示しさせていただいておりますけれども、今のご意見も踏まえまして、調査する項目については慎重に検討していきたいと思えます。また改めてご意見を頂戴する機会を設けたいと思えます。

寺田会長

ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。谷崎委員お願いします。

谷崎委員

追加項目案の中にある「ワーク・ライフ・バランス」に関するところの言葉の使い方ですが、「仕事と子育てを両立させるうえで大変だと感じていること」とありますが、それよりも「両立させる中で大切にしていること」といった質問の方が見えるものも違ってくると思えます。先ほどの講演の中で、子育ては大変ですという話もございましたが、もちろんそうなのですが、同時にとてもすばらしいものでもありますので、意見をさせていただきます。

事務局（子ども教育経営担当）

ありがとうございます。実際の設問の聞き方、選択肢という部分については、今後事務局のほうで案をつくりまして、委員の皆様にもご意見いただき調整をしたいと思えます。

寺田会長

ありがとうございます。私からも一言、設問内容はこれから詰めていただくことになるかと思えますが、就学児童調査について「これまでの放課後の過ごし方」だけでなく、「放課後の過ごし方で感じていること」や「期待すること」という設問も必要なのかなと感じました。

ほかにご意見ございますか。藤田委員お願いします。

藤田委員

今回は調査対象を拡大するという事なので難しいかもしれませんが、妊娠前の方ですとか、子どもを持つという意向があるのだけれども、まだ具体的に区の子ども・子育て施策に引っかかっていない方への調査も大事なのかなと思っています。今年度の検討内容にもテーマとして子育て支援情報の提供がありますが、中野区での子育て支援情報についてはもちろん区として情報発信をしていかなければいけないわけですよね。妊娠中や子どもが生まれた後の方に届けなければいけないのはもちろんですが、妊娠前の方にも届けないと、中野区で子育てをしようという人が増えない可能性がありますよね。もう少し住環境のよさそうな別の区に移ろうというようなことになる前に、妊娠前の世代の人がどうしているのかを考えた上で中野区で生活しているのかといった状況把握が必要になってくるのかなと思います。

もう一つ、例えば25年度時の調査では、基本的に施策とか施設を利用している方に向けたアンケートになってしまっていると思います。サービスを利用していない人や利用したいけれどもできない人、例えば学童クラブを利用したいのだけれども、待機になってしまっている人ですとか、そういった方にも話を聞くと、より実態が見えてくるのではと思うのです。

25年度の調査では、「放課後の過ごし方の希望について」ということで、習いごとや学童クラブ、スポーツクラブなどが挙げられていますが、例えば学童クラブに入れないので、習いごとを増やしたという家庭はたくさんあると思います。キッズ・プラザでは、子どもの入退館時に保護者へメールが送られる仕組みがあり、きちんとそれは記録がつくようになっていて、保護者の安心という意味ではすごく得ていますけれども、それよりも安心するために、週1回だった習いごとを3日に増やすとか、そういった話を周りでたくさん聞きます。例えばそういう方の意見を聞くと、ここの地域にはもっと学童クラブが必要なのではないかとか、キッズ・プラザでこういうことが提供できれば、保護者の安心を得られるのではないかと、施策の充実に生きてくると思うのです。実際に学童クラブを利用している人に聞いたところで、多分その部分は出てこない話だと思うので、いろいろと意見を聞くということは努力すべきところではと思います。

事務局（子ども教育経営担当）

ありがとうございます。妊娠前の方のご意向等を把握することは、確かに大切なことだ

と思っております。ただ、今回の調査の中に、無作為で子どもを生む年代の方への調査を加えるということについては難しいかと思えます。

一方、区では、区全体のアンケート調査もありますので、その中にその項目を入れられるかどうか、区の中での調整が必要ですが、そういった別の調査で、一般の方に対して調査ができないか検討していきたいと思えます。

それから、例えば学童クラブに入れなかった方に対してのアンケート、またその方を対象にした調査というものにつきましては、今回の子ども・子育てアンケート調査についても、その年代層の方を無作為に抽出して調査いたしますので、学童クラブに入っている方、入っていない方両者にアンケート調査ができると思えます。その設問の中で、今おっしゃった条件を、そのまま聞けるかどうかはわかりませんが、どうにか工夫ができないものか、検討していきたいと思えます。

藤田委員

ありがとうございます。今、学童クラブで例示を出したのは、私自身のことで話しやすかったからですが、各年代でそういう状況の方、例えば保育園でもいらっしゃると思えます。保育園に入れていないけれども本当は預けたいですとか。何とかその意見をうまく集約できると、アンケートをやる意味が出てくるかなと思えますので、お願いします。

寺田会長

貴重なご意見ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

よろしければ、本日の議題は以上で終了となります。次にその他、何かございますか。関委員をお願いします。

関委員

議題1について、年齢ごとの定員数の記載へと変更して下さるということもございましたが、それに加えて、中央部認定こども園（仮称）というのは、恐らく幼保連携型認定こども園だと思われるので、その表現も修正していただいた方がよいかと思えます。

事務局（幼児施設整備担当）

はい。ではそのようにさせていただきます。

寺田会長

ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。それでは事務局より、次回の日程についてご連絡をお願いいたします。

事務局（子ども教育経営担当）

次回の日程でございますが、6月19日火曜日の18時からということで設定をさせていただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。場所は5階の教育委員会室になります。よろしくお願いいたします。

また、6月以降につきましても、皆様ご予約がもう既に入っている部分もあるかと思いますが、早急に日程調整をさせていただきたいと思います。

寺田会長

それでは、本日は少し長丁場になりました。また本日は多くの区民の皆様、区外からもご参加いただいたかもしれません。この場を借りて厚く御礼申し上げます。今回急なご依頼にもかかわらず、内閣府の唐澤様にお越しいただきまして、このような形で平成30年度の子ども・子育て会議をスタートすることができました。

唐澤様のお言葉の中に、地域を耕す仕事、たくさんの仲間とやり続けるということが、とても素晴らしいことだというお言葉がありましたけれども、まさに、この子ども・子育て会議は、地域の皆様と一緒に、協力していくからこそ成り立つものではないかと思っております。それをモットーに進めておりますので、どうぞ今後ともご協力をお願いしたいと思います。

これにて第3期第4回中野区子ども・子育て会議を終了いたします。本日もさまざまな貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

— 了 —